



特集 公民館に関する意識調査中間報告

視 点 「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」
学べる社会の実現を

ひろば 愛鳥週間に寄せて—環境づくりこそ—

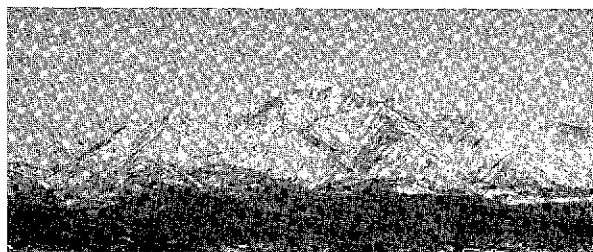
実践記録 小さな文化事業 松代町公民館

サークル交流 親子習字教室（笹神村）野菊の会（長岡市）

素顔拝見 平方健氏（山北町）小野敬氏（青海町）

表紙 第4回米山山麓ロードレース

（柿崎市中央公民館）



新役員出そろう

新らしい時代への即応を課題に

編集専門委員も改選

会長 今井昭友(新潟市中央公民館長)

下越地区公民館連絡協議会長

副会長 河端守明(上越市立公民館長)

上越地区公民館連絡協議会長

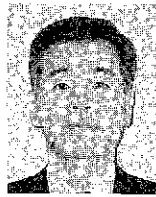
武樋清徳(長岡市中央公民館長)

中越地区公民館連絡協議会長

渡辺清三(新発田市公民館長)

下越地区公民館連絡協議会副会長

会長就任挨拶



戦後五十年と公民館

会長 今井昭友

昨年は、県下においても激動の年であった。地震、豪雨、オウム事件、いじめと相次いだ。今年には、公民館が誕生して五十年目という節目の年に当たり、会長職が全うできるかと頭が痛い。

確かに、文部省の生涯学習局への改組以来、公民館のインテリジェント化や、コミセン、生涯学習センターといったハコ物談義が活発になった。

ところで、上、中、下越公連

公民館のスタートは、戦後の荒廃し、混乱した社会の中で、「青空公民館」が創設期を物語る。そして現在の変革期にいたり、「公民館が問われている」。

研修会において、「公連審」をとりあげ、職員体制との関連も考えてみたい。

それにつけても、公民館は真に地域の中核施設となりうるのか……。国際化、高齢化等が進

当会の新役員が出そろった。会長は先の評議員会で選任済みであったが、副会長、理事、監事については各地区公連の推薦をまわって選任・委嘱することになった。このほど三地区公連の所定の会議を経て全役員が出そろった。

理事 瀬戸満雄

新井市公民館長

山川資郎

糸魚市中央公民館長

今井十志崇

栃尾市公民館長

日黒悌一

下田村中央公民館長

松井弘

新潟市中央公民館長

齋藤久夫

津川町公民館長

名畑實

真野町公民館長

渡辺紀一

青海町公民館長

近藤貞雄

加茂市公民館長

高橋由男

巻町公民館長

大岡政士

県立生涯学習推進センター副参事

平丸誠

上越市立公民館副参事

豊岡毅憲

三条市中央公民館長

風巻貞夫

津南町公民館長

田中清

新潟市中央公民館係長

山口稜

新潟市中央公民館事業係

新任公民館職員におすすめるハンドブック

公民館経営の手引 公民館運営審議会委員の手引

社会教育学級等における

学習計画立案の手順と方法

横浜国立大学教授 吉川 弘著

B5版 62ページ
500円(送料実費)

B5版 62ページ
500円(送料実費)

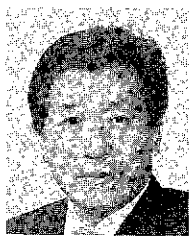
B5版 44ページ
500円(送料実費)

新潟県公民館連合会役員名簿
平成8年4月25日現在

役員		新 役 員	
役職	氏名	氏名	所属公民館
会長 副会長	今井 昭清	友二 弘夫	新潟市中央公民館
	渡松 敏武	三 弘夫	新潟市中央公民館
理事	井邊 井木	友二 弘夫	新潟市中央公民館
	松田 敏武	三 弘夫	新潟市中央公民館
監理	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
副理事	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
副監理	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
理事	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
副理事	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
監理	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
副監理	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
理事	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
副理事	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
監理	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
副監理	伊藤 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館
	田中 和芳	三 弘夫	新潟市中央公民館

視 点

「いつでも、どこでも、だれでも学べる」生涯学習社会の実現を目指した自治体の取組みが活発になってきている。



家庭教育、学校教育、社会教育、地域・職域教育等を糾合して生涯学習の傘下には入れられ

「いつでも、どこでも、だれでも学べる社会の実現を」
小堺 昭一

「いつでも、どこでも、だれでも学べる社会の実現を」

「いつでも、どこでも、だれでも学べる社会の実現を」

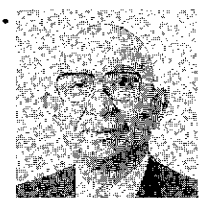
「愛鳥週間」に寄せて

——環境づくりこそ——
高橋 文明

最近の心の時代とよく言われる、たしかに今迄モノに頼り、モノ

四年間家族同様に暮らした雀のピー子がなくなり、あまりの淋しさに空子と名づけた文鳥を飼い、放し飼いで家中を飛んで回る。四月になってタンスの中に卵を生みはじめ、現在六箇の卵を温め一日の大半をついやしている。様子を確かめようと中をのぞくと体に似合わない大きな口を開いて威嚇する。外敵から卵を守る為には自分の危険をかえりみず猛然と立ち向かう姿を見るにつけ、今問題になっている学校でのイジメについても、親は吾が子を守るためには外間や世間態など気にせず、あらゆる所で機会をとらえて社会に訴え隣近所、学校、社会が一体になって環境づくりに立ち上がる。しかし暴力によって自分本位の主張を通そうとする風潮だけは根絶しなければならぬし、許されない事である。イジメの為に登校拒否や死を選ぼうとするの社会を築くのが公民館活動であり、生涯学習の目指すものと痛感している。

(関川村公民館運営委員長)



自己実現欲求であり、自己規制が基本となつて、自己の興味・関心に基づき学習内容が他者に管理・抑圧されない自由が保障されなければならない。乳幼児期からの自主・自立性が、生涯学習の各段階で育てられる配慮がなされるべきである。生涯学習の基本的考え方を、より鮮明にするために、生涯学習振興法の具体化を切望する。

(上越市社会教育委員)

生涯学習の基本的な考え方は、こんな発想でよいのだろうか。先般、生涯学習先進

報告

に関する意識調査

事部会事業

一、はじめに

この調査結果は、中越地区公民館連絡協議会(以下中公連)の主事部会の企画によって実施されたものである。その目的とするところは、来る7月26日栃尾市で開催予定の第47回新潟県公民館大会において、主題「生涯学習社会を目指した公民館の役割」を研究協議するための基礎資料とすることにあつた。

調査対象は、県内の全公民館(ただし分館を除く)の館長・職員・公民館運営審議会委員(以下公運審)とした。なお、公民館長及び職員は非常勤嘱託

を含んでいる。調査票の回収実績を市町村数で見ると、19市58町村計77市町村で全市町村の69%の回収率。

プロフィール

館長	男	189	190
	女	1	
職員	男	231	319
	女	88	
公運審	男	115	173
	女	58	

ここに紹介する調査結果は、速報または中間報告として、全体数字の特徴的なもののみを編集部が独自に抽出したものである。なお、市の館長・職員については中央公民館のみを抜き出

【図1】指導者やボランティアの必要性について。

- (1) これからの公民館活動には不可欠になると思ふ。
- (2) 共生社会づくりの推進役として重要。
- (3) 公民館の職員不足の穴埋めの意識しか得られない。

館長	市	37.5	56.3	6.2
	町村	44.0	49.0	4.0
職員	市	44.3	45.6	8.9
	町村	42.3	49.6	7.3
公運審	市	31.3	45.3	10.9 無回答
	町村	36.5	49.4	10.6

【図2】地域(地区・町内・集落)づくりと公民館の関係について。

- (1) 「地域づくり」の活動を充実すべき。
- (2) 「公民館」の活動と「地域づくり」の活動は異なるもの。
- (3) その他
- (4) 無回答

館長	市	75.0	18.8	6.2
	町村	76.0	16.0	1.3
職員	市	64.5	22.8	11.4
	町村	71.5	18.2	5.8
公運審	市	67.2	21.9	4.7
	町村	71.8	23.5	2.4

【図3】これからの社会で重要になるのどのような事業だと思いますか。

各問とも上段館長、中段職員、下段公運審

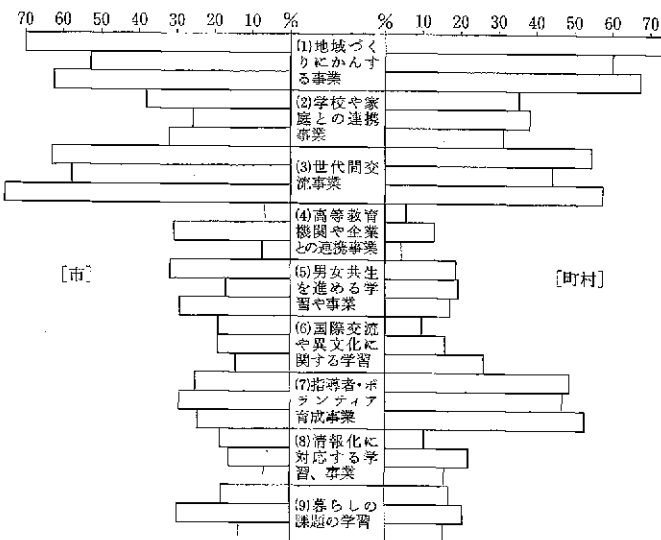


図1によれば、市・町村ともに同一の意識をもっていることがわかる。「職員数の不足を補う」という意識が薄く、「地域づくり」や「共生社会づくり」への期待度高いことが示されている。

問2は、地域(地区・町内・区・集落等)における公民館活動のあり方について問うたものである。(1)は公民館こそ、むらおこし、町づくりの中心的役割を果たすものという考えに対し、(2)は村

問3 ここでは、これからの新

おこし町づくりの主役は地域住民であつて、公民館は問題提起のための学習活動に専念するものとして、距離を置くべき、という考え方である。

図2によれば、市では直接地域づくりにかかわる比率が、距離を置くべしとする比率よりも低いのに対して、町村では「地域づくり」が高い比率を占めている。この特色は、館長より職員・公運審の方が顕著な傾向を示している。

問3 ここでは、これからの新

【図4】公民館が主催事業への参加費を徴収することについて。

- (1) 受益者負担の論理(償價的賛成)
- (2) 質の高い学習活動のため止むを得ない。(消極的賛成)
- (3) 公立公民館は無償の原則(反対)
- (4) 無回答

館	市	(1)43.8	(2)43.8	(3)12.4	(4)
長	町	22.7	32.0	41.3	4
職	市	50.6	31.6	16.5	
員	町	42.3	35.0	18.9	
公	市	28.1	32.8	35.9	
運	町	28.2	43.5	25.9	

図3によれば、市と町村とはお

【図6】職員の専門性についてはどうお考えですか。

- (1) ますます専門性が大切になっていく。
- (2) 利用者の利用の便を図る程度でよい。
- (3) わからない。
- (4) 無回答

館	市	(1)56.3	(2)43.7	(3)2.7	(4)
長	町	62.7	29.3	3	
職	市	64.6	20.3	12.6	
員	町	51.1	33.6	11.7	
公	市	48.4	34.4	7.8	
運	町	58.9	35.3	9.4	

中間

特集 公民館に

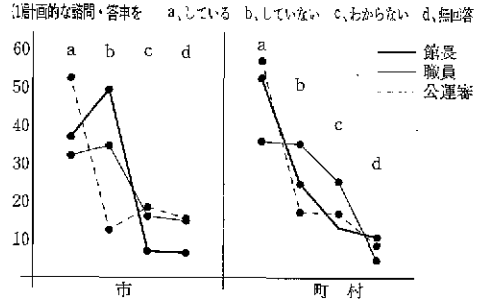
中越公連主

【図5】生涯学習社会を目指す公民館の職員体制にどうあるべき。

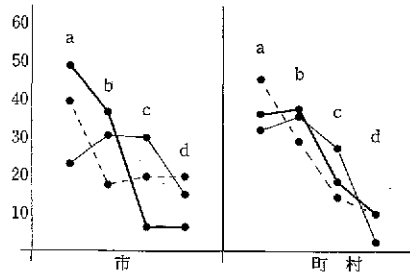
- (1) 多様な住民のニーズに応え、職員体制の充実が望まれる。
- (2) 利用の便を図る程度の職員体制でよい。
- (3) どちらとも言えない。
- (4) 無回答

館	市	(1)75.0	(2)18.7	(3)6.3	(4)
長	町	85.3	5.3	3	
職	市	70.1	11.4	17.7	
員	町	80.3	6.6	12.4	
公	市	65.6	9.4	15.6	
運	町	66.0	16.5	8.2	

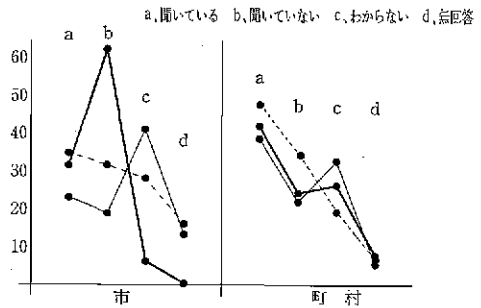
【図7】あなたの公民館の公民館運営審議会現在の実情について



【図8】定期的な調査・情報活動について a,している b,していない c,わからない d,無回答



【図9】館長の任命(委嘱)にあたって教委はあらかじめ意見を公運審に



しなべて似た傾向にあるものが多い。「地域づくり」に関する学習や活動が70%を超えて断然大きな比率を示している。続いて、世代間交流に関する事業の比率が高く、町村に比べて市が突出しているのが特徴的である。学校や家庭(教育)との連携強化と、指導者・ボランティアの育成では町村の方が高い比率を示している。

反面では、国際化社会や情報化社会への対応であるとか、高等教育機関との連携や活動に関する反応は低い。

その中で、職員の意識は、高等教育教育機関との連携に高い反応を示しているのが特徴的である。

三、公民館の管理に関するもの

問4は、いわゆる受益者負担の是非についての意識を調べたものである。

図4によれば、市・町村共に、この問題については50%を超える反応がないことから、問題意識としてあまり強いものが無いと言えようか。

しかし、館長では(3)無償の原則の比率が低い、特に町村の館長の比率が低い。これに対して職員では、逆に町村の方が比率が高くなっている。公運審では市の委員の無償の原則の比率が最も高くなっている。

問5 職員の体制について

職員体制の現状は、勤続年数の短期間化傾向や、リストラの

敏寄せによる人員削減など公民館にとって厳しい状況にあるのでその打開に向けての意識を調べたものである。

図5 多様な住民のニーズに対応するには、職員体制の整備充実が大切であるという反応が極めて高い比率を示しているものの図6では、専門性の必要度は必ずしも高くはないという傾向が知られる。

四、公運審の活動状況の実態

図7によれば、(1)(2)(3)それぞれaの反応の高いのは公運審の委員自身である。館長職員の比率が低いことが指摘できる。

全体として特徴的なのは、公運審に対する関心は、どの質問項目でも「分からない」という比率が大きいことである。

実践記録シリーズ(9)

小さな文化事業

生涯学習モデル町事業の中から

松代町公民館

一、はじめに

県の生涯学習推進モデル事業の指定を受け、事業に取り組んだ中から「おらが村の自慢づくり」を取り上げました。町内の風土・歴史・自然などの地域素材、身の周りにある小さな文化を掘り起こし、その集落の個性や特徴を生かしたふるさとづくりをねらったものです。

この「自慢づくり」事業に五集落が取り組みましたが、そのうち、戸数三十戸にも満たない小集落(福島村)の壮年層のグループが積極的に取り組んだ活動事例です。

二、事業への取り組み

1、「ふるさと文化を守る会」の結成

若者が少なく、高齢化と過疎現象がうち続き将来への展望を持ちにくいのは、町共通的課題ですが、特にこの集落ではその生活課題が大きいのかかってはいる村です。しかし、「このままではいけない」と集落の将来を

案ずる人たちが、公民館の呼び掛けに応じて「おらが村の自慢づくり」に取り組んでいます。壮年層の男ばかり十人が集まり「ふるさと文化を守る会」を

結成しました。平成五年の夏の集会を開くことにしましたが、一家の大黒柱ばかりのことです。から仕事の都合もあり、いつも全会員が集まるのは困難でしたが、ふるさとを守る会という会員の熱意で集まりました。

2、森林浴公園づくり

最初に取り組んだのは、「丸山のブナ林」を森林浴公園にすることでした。樹齢は若いのですが姿のよいブナ林です。

メンバー全員で視察し、全体の状況を観察。散策のための道路づくりとか、休憩場所の設置や展望台の位置など、いろいろと構想が湧いてきました。それを全部実現するには大変な労力が必要になりましたが、何しろ自分たちの村の自慢づくりのこ

とであり、胸を張って自慢のできるものにしようという夢のある仕事です。

まず、散策道路の位置や方向を決めました。次いで、散策路の路面の雑木や雑草の薙ぎ倒し

です。大がま、鉈、チェーンソーなどを使つての切り払い作業です。やがて、遊歩道ができ、休憩場所ができ、展望台の位置が



その場所の雑木を切り払い展望場所ができました。平坦地にキャンプや集会のできる広場を作ったり、集落の中心部に案内板をたて町内外の人たちへの宣伝もしました。

このようにして、ささやかながら森林浴公園ができました。ふるさとの地形をいたためず、散策する人が自然のままのブナ林の匂いを嗅ぎ、心のやすらぎを覚える、そんな小さな森林浴公園として「おらが村の自慢」づくりに挑戦したものです。

この森林浴公園ができた翌年の夏には、お盆の帰省客や墓参りの人たちが、早速散策をし、森林浴を楽しんでいきました。

3、「ささゆり」の保存活動

第二年度は「ささゆり」の保存活動に取り組むことにしました。「守る会」の会員の一人の発想で始められた活動です。

村の林道の周辺に咲く淡いピンク色の可憐なユリの花を保護し、乱獲から守ろうとするものです。会合では「ささゆり」の勉強から始めました。

この村に生きてきた私どもにとつて、この美しい「ささゆり」を守り育てていくのは当然の義務のように思えます。主な群生地二か所に大きな看板を立て、一株ごとに保存番号を付した標識を建てました。先ず最初の年

は四十本、二年目に更に四十本と建てていきました。

4、石像仏の発掘

山道の脇の杉林の中にひっそりと眠っている石ころがいくつもありました。よく見ると「庚申」の文字が見えます。いつの頃、誰が刻んだのか、古老に聞いても分かりませんが、村人が昔から信仰の対象としてきた石像であることは間違いないと

思われます。落葉に隠れ、半分に埋まっていたままの石像を掘り起し丁寧に並べる作業をしました。一つ一つの台座も出てきました。

その場所に標柱を建て、周辺の草刈りをして、容易に訪ねることができるようになりました。

三、おわりに

自分の住んでいる地域に誇りを持つて何かを作ろうと取り組んだ「おらが村の自慢づくり」の事業のささやかな実践でしたが三年目には観光マップもでき、一人一人みんなが外来者に対して観光ガイドができるように勉強しようとして張り切っています。

また、これからは、「ふるさと文化を守る会」だけの活動にしないで、女性の活動の場、子供たちも参加の場を工夫して村ぐるみの「自慢づくり」にしたいと相談しています。

(松代町公民館長 西瀧 浩平 記)

サークル交流

子供達と共に学ぶ

笹神村親子習字教室

書が好きだ。字がうまくなりたい、そんな仲間が集まって、教室が発足して八年になります。小、中、高校生、大人、と二十数名の会員が、週一回石井先生の許、村の公民館で学んでいます。

目習い、耳習い、手習い。見て、聞いて、書いて、子供達の賑やかな声も、筆をもつと同時に無の世界が広がります。書は性格がでるといわれます。子供達の素直な字は、先生



の教えられたまんま伸びくと、逆に私達大人は、少しでもうまく見せたいと欲が出て、字が縮まってしまふ。書を通して、忘れかけた子供達の純真無垢な心をかいま見る想いがします。月に一回清書をして提出し、又、村の文化祭に発表したり、と上達の励みにしてあります。学ぶ他に、集中心力を養い、終わった後の充実感を味わう、みなさんのコミュニケーションも楽しみの一つです。これからも子供達と一緒に、ゆっくりと楽しみながら頑張りたいと思えます。

(親子習字教室 山口綾子記)

仲間づくりと学習活動

長岡市 野菊の会

「野菊の会」は、自主学習グループで二十五年目でございます。新潟日報婦人教室OBでつづられ、年度は十一月から十月。会員教四五名。年会費三千五百円。毎月第三火曜日午後。

学習目標、①生涯にわたって学習を継続する学習態度を身につける。②人生の設計と地域に参加して行くため、自己能力を



啓発していく。学習計画は、総会で、みんなで学びたいものをだしあつて決定する。

計画の柱は、郷土史家の高島一男先生による、郷土を知る歴史講座。植物学の西山邦夫先生の山歩きによる自然講座。新潟日報報道部長の時事講座。会員講師による講座。生涯学習に展開できる体験学習講座等。

カルチャータリかならず、シリーズ性をもつよう考えている。

野菊の会を発足して下さった諸先輩に感謝し、この会を母体とし、参加でなく参画する能力を養い、地域社会に貢献しつつ学習をしています。

(会長 渡辺静江記)

山北町公民館主事補

平方 健氏

新規採用と同時に社会教育課に配属されて三年目。

ついこの間まで高校生だったために、配属当時は繁雑な職務に堪えられるか、回りの先輩から心配されましたが、本人は至ってマイペースで、伸々と自由に仕事に頑張つて居ります。彼の担当は、成人式、地域子供会、緑の少年団、地区公民館、と多種多様であり、時



供会、緑の少年団、地区公民館、と多種多様であり、時

素顔拝見

青海町公民館・主査

小野 敬氏

今年4月の異動で、総務課の広報担当から転身、公民館本館の職員となった小野主査を紹介致します。



帰宅時間が遅いため、白動車通勤の毎日に……。その勇姿になかなかお目にかかれなくなつたのは残念の一言です。担当している仕事は、主にスポーツ関係。特技はバレーボールで、女性対象のスポーツ講座では、持ち前の明るさも手伝って絶大な力を発揮し、公民館には欠かせない存在となっております。

青海町では、広報担当から公民館職員へのレールが敷かれて

いる(？)との噂もあり、この異動は本人も十分覚悟のうえ……。喜び勇んで出勤、充実した毎日をおくっているようです。約10kmの通勤はもっぱら自転車。さっそうと通勤する姿は、

青海の「中野浩一」(元競輪選手)と呼ばれていましたが、最近

には帰りが遅くなったり、土日も仕事で潰れたりすることがあります。若さを武器にいろいろと、チャレンジしてもらいたいものです。

また、スポーツは、野球、バドミントン、テニス、スキー、と何でもこなす、万能選手でもあり、生涯スポーツの推進にも、大きな期待がもたれています。

目下、職場の野球チームでは(正)捕手の座を、はば手中にして活躍中の、健クンです。

(山北町社会教育課長 本間茂記)

(青海町公民館 井川賢一記)

惠贈資料紹介

生涯学習地域づくり

資料第12集

「横浜と縦糸」

刊

柏崎市大州地区公民館

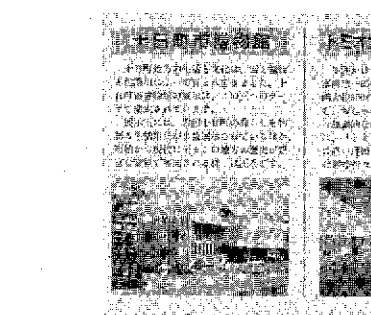
雪文化三館提携と

共通入館券の発行

魚沼地方は、雪国と呼ばれる越後でもとりわけ豪雪地として知られる地域である。この魚沼の里にある十日町市博物館・六日町のトミオカホワイイト美術館・塩沢町の鈴木牧之記念館が、雪のとりもつ縁で姉妹館提携を結んでから、今年で五年目を迎える。

この提携は、「雪と人が織りなす雪国特有の文化」を象徴する「モノと芸術とヒトの粋を集めた雪文化の殿堂」である三館が、「互いに協力して、新しい雪文化の創造発展に寄与してゆく」ことを目的として結ばれたユニークな提携であり、いわば雪文化ネットワークとでもいうべき関係である。

今年度から三館共通券の発行に踏切ることになった。この共通入館券は、一枚で姉妹館である三館を巡観できるようになっている。料金も通常入館料の三割引きというお得な設定になっている。内には三館の情報・案内も記され、外観は雪華文様をあしらったギフトカードの体裁をとっている。シャレた贈物としても利用すれば喜ばれるのではないだろうか。



B5判、54ページからなる冊子で、地域づくり学習の手ごころな資料集である。

「大州地域の移り変り」と題し、第1章「地域のあらまし」では地域の景観やムラの変遷と暮らしが、第2章では、衣食住に関するもので、たくさんさんの写真が掲載されており、昔懐かしいものばかりである。

千 945 柏崎市赤坂3-14

柏崎市大州公民館

小千谷市公民館 創設50周年記念誌

小千谷市公民館は昭和21年に町(当時)の公民館工場として開設されたとされる、県下の公民館第一号として自負している

公民館設立50周年を祝した記念誌として刊行したものである。

A4判53ページの冊子である。

発行の言葉に続いて、「公民館と私」と題する、過去の公民館関係者の思い出のほか、実践発表論文、写真で綴る公民館活動資料編などが掲載されている。

千 947 小千谷市土川一丁目三番

三号小千谷市民会館内

小千谷市公民館

〇二五八八二一九一一

平成8年度

佐渡の公民館

佐渡地区公民館連絡協議会

佐渡全島の一市九町村の公民館概覧である。行政・社会教育の重点や、職員一覧に続いて、

表紙解説

米山山麓

〇ードレース大会

四月二十一日に第四回大会が開催されました。標高差二〇〇メートル、距離一〇マイルのコースを含むこの大会には、県内外から八七九名の参加があり、健脚を競いました。(柿崎町中央公民館)

公民館で開設している事業や学習計画が掲載されており、各町村の公民館事業索引に便利である。

B5判 袋とじ

千 952-03 佐渡郡真野町大字吉岡一六九七-一

真野町公民館内佐渡郡公民館連絡協議会事務局

〇二五九一五五二二一九

あ と が き

◆公民館意識調査へのご協力ありがとうございました。おかげ様で、県公民館大会への問題提起がはつきりと捉えることができました。

それにしても、前年度三月に実施する予定が四月にズレこみ、人事異動と重なったためか、調査項目への無回答が目立ちました。

ご協力に深謝します。(上)

発行所 新潟県公民館連合会 千951 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】 【TEL・FAX (025) 224-6073】 発行人 会長 今井昭友 編集人 事務局長 上村捨一郎 【定価1部150円 年共・年極1,800円】